

アナウンスメント（認定医認定審査を受ける方へ）**試験の問題と解説**

「研修コーナー」は新たな企画として、日産婦誌48巻1号より生涯研修だけでなく、卒後研修医も対象にした内容になっております。ご存じのように日本産科婦人科学会における認定医制度は平成5年度より試験による認定が行われており、それにはカリキュラムに沿った卒後研修指導施設における5年間の研修が義務づけられております。認定医認定審査は書類審査（一次審査）と面接試験（二次審査）に分かれており、二次審査は試験官による約20分間の個人面接試験です。申請時に研修記録として提出した症例レポート、会場で渡される疾患例（共通問題）をもとに、疾患の概要、治療方針、インフォームドコンセントなどについての試問があります。試問はその疾患についてどれだけ深い知識を有しているかを判定することではなく、診断や治療へのプロセスを重視します。またその疾患については、患者の家族への説明など実地臨床に即したシミュレーションテストもあります。

中央認定医制度委員会としましては、試験の概要を理解していただくため、次号より「研修コーナー」に数回にわたり、既出の共通問題とその設問のポイントを掲載することになりました。これから認定医認定審査を受ける研修医ばかりでなく、すでに認定医である会員の方も、疾患についての理解を深めていただくよう作成しましたので、自己研修の一環としてお読みいただければ良いと思います。

平成8年度認定医認定審査を受ける方の申請の際の注意

平成8年7月27日（土）に認定二次審査（面接試験）が行われます。本年度の認定医認定審査の申請資格を有する方は、日本産科婦人科学会会員として平成3年度以前より学会指定の卒後研修指導施設で研修を開始した方です。

平成8年度の認定医認定審査を希望される方は、所属する地方委員会に問い合わせて各種申請書類と記入の手引きを入手し、所定の手続きをお取り下さい。各地方委員会への申請書の提出と審査料の納入は平成8年5月1日より31日までの期間です。

提出された申請書類が審査（一次審査）の対象となりますので、研修歴、症例記録や症例レポートは誤りのないように充分注意して記載して下さい。

申請書類の種類**1) 認定医認定申請書（様式第1号）**

申請者の申請資格などが一次審査の対象となります。昨年度より申請書類に写真を貼付することになりました。認定審査にふさわしい服装で撮影したものを使用して下さい。

2) 研修記録（様式第3号）

研修記録は卒後研修期間中（平成8年3月31日まで）に経験した症例について記入して下さい。研修記録には実地経験目録（産科、婦人科）、症例記録、学会出席、研究論文、症例レポートがあり、5年間の研修期間中に申請者がどのような内容の研修を行ったか記載していただきます。その記載については手引きを参照して誤りのないようにして下さい。

（つづく）

症例レポートに関しては二次審査（面接試験）でそれに関連した事項について質問があります。受験前にもう一度その症例についての知識を整理しておかれると良いでしょう。

不明な点については地方委員会にお尋ね下さい。

明年度以降に認定医認定審査をお受けになる研修医の方々は、毎日の臨床に卒後研修手帳を活用され、研修記録の整理をしておかれると良いでしょう。

日本産科婦人科学会 中央認定医制度委員会
委員長 矢内原 巧

EXERCISE 解答

10	(45) d	(46) c	(47) b	(48) e	(49) a
11	(50) a	(51) c	(52) d	(53) a	(54) d
12	(55) a, b, e	(56) e	(57) c, e	(58) b, c	(59) c, e
13	(60) e	(61) b	(62) c	(63) a	(64) e

お詫び と お願い

48巻3号の研修コーナー「今月の研修テーマ」のうち斎藤 裕先生の執筆論文のタイトルが印刷工程の段階で欠落してしまいました。

著者および会員の先生方にご迷惑をおかけしましたこと深くお詫び致します。

つきましては、下段にあります題名を切り取り貼付していただければ幸いです。

日産婦誌研修コーナー
編集小委員長 荒木 勤